



下
子刊



石渠文庫

源氏若
宰相

賀のちみ

春

正月一日朔降ふまゝ

二月十日最悪の冬行産
り子産逆は冷泉院とす

夏

四月若くは五月

秋

七月最悪寺三后。源氏若相宰相
帝は讓位のつひに連くあるま

冬

春

正月七日降ふ若
まつむねの降に
り又の日二条
降ふ

冷泉院
後使

源氏若
五十七

十 九 八

源氏若
西三位

冬

十月十日最悪の冬行産
り子産逆は冷泉院とす
○若くは五月の降
月晦日降ふ

春

七月十日最悪の冬行産
り子産逆は冷泉院とす

夏

三月十日最悪の冬行産
り子産逆は冷泉院とす

若くは五月

冬 春 夏 秋

春

八月十日最悪の冬行産
り子産逆は冷泉院とす

臘月若くは
源氏若くは
つむねの降を
り

源氏若
西三位
若くは五月

十 八 七

未摘花十八の月と

八の月と

桐葉帝
の即位
は源氏
の宗廟
に安ん
ずるに
由りて
是の事
は二年
の間に
あり

源氏
大将

花宴

春

二月廿五日南殿の桜の宴あり其時源氏若弘徹殿の
細殿は思ひて朧月ありて夜初より
又三日後宴あり
三月廿五日二条右衛門の弓のけしきありて宴あり

おぼろか
源氏若今年大おぼろかありて若葉よしのり

二 十 一 歳

源氏
廿二の月と

源氏
浄在位

ひ ふ の

春

正月廿日源氏若内より
又大敷よりあり

冬

十月廿五日
源氏若内よりあり

秋

葵上は源氏若内よりあり
秋のついであり
八月廿五日葵上は源氏若内よりあり
十月廿五日葵上は源氏若内よりあり
源氏若内よりあり

夏

源氏若内よりあり
源氏若内よりあり
源氏若内よりあり
源氏若内よりあり

さ

秋

九月廿七日源氏若内よりあり
十月廿五日源氏若内よりあり
十一月廿五日源氏若内よりあり
十二月廿五日源氏若内よりあり

廿 二 歳 三 十 歳

源氏君
権大納言

源氏君
権大納言

き し よ

廿八の秋
廿九の四月と

はきいひりし常陸の
源氏君の事とて源氏君
の事なり又大納言の事
の事なり又大納言の事
の事なり

冬
十月源氏君八海行ひ
二月月より

み

石

源氏君
廿九の四月と

春
とくろぬき
夏
六月より源氏君の
秋
七月より源氏君の
冬
十月より源氏君の

冬
十月源氏君八海行ひ

源氏君
権大納言

歳

八

七

磨

春
二月より源氏君
己の日の後より
源氏君と訪ひり

明

明石
廿八の秋と

春
ふらぬ風やまの
秋
八月より源氏君の
冬
十月より源氏君の

明石
源氏君

歳

七

七

源氏君

雲

春

- 年々了ぬき
- 三月 孫氏を改去后薨 薨上の父君
- 三月 孫氏を改去后薨 權安院の
- 四月 孫氏を改去后薨 權安院の

秋

- 秋の司正に孫氏を改去后に薨す (三十一) 是れありと
- 秋の司正に孫氏を改去后に薨す (三十一) 是れありと
- 秋の司正に孫氏を改去后に薨す (三十一) 是れありと

朝

朝 孫氏を改去后の九月より

秋

- 九月 權安院 孫氏を改去后に薨す (三十一) 是れありと
- 九月 權安院 孫氏を改去后に薨す (三十一) 是れありと

冬

- 冬 孫氏を改去后に薨す (三十一) 是れありと

貞

夕芳君 之服

孫氏君 之改去后

とらふ 三十三の夏に初より 二十五の十月まで

夏

- 夏 孫氏を改去后に薨す (三十一) 是れありと
- 夏 孫氏を改去后に薨す (三十一) 是れありと
- 夏 孫氏を改去后に薨す (三十一) 是れありと

- 孫氏を改去后に薨す (三十一) 是れありと
- 孫氏を改去后に薨す (三十一) 是れありと
- 孫氏を改去后に薨す (三十一) 是れありと

冬

- 冬 孫氏を改去后に薨す (三十一) 是れありと
- 冬 孫氏を改去后に薨す (三十一) 是れありと
- 冬 孫氏を改去后に薨す (三十一) 是れありと

孫氏 三十一

卅

二

歳

孫氏 卅

卅

三

歳

今位上

夕香若
大御
大將

下

<p>春</p> <p>○ 冷泉院即位十八日 ○ 口奉御儀位奉受御 ○ 夕香若の長女を御 又納すに成られたり ○ 十月申の十日保成若位吉訪成石女御位上を授けり ○ 女之宮二に成り ○ 成石女御位上を授けり ○ 年の暮つてハ</p>	<p>夏</p> <p>○ 四月十日保成若位吉訪成石女御位上を授けり ○ 女之宮二に成り ○ 成石女御位上を授けり ○ 年の暮つてハ</p>	<p>秋</p> <p>○ 八月九月 ○ 十月廿二日保成若位吉訪成石女御位上を授けり ○ 女之宮二に成り ○ 成石女御位上を授けり ○ 年の暮つてハ</p>	<p>冬</p> <p>○ 十一月廿二日保成若位吉訪成石女御位上を授けり ○ 女之宮二に成り ○ 成石女御位上を授けり ○ 年の暮つてハ</p>
<p>女之宮 二に成り 成石女御 位上を授けり</p>	<p>女之宮 二に成り 成石女御 位上を授けり</p>	<p>女之宮 二に成り 成石女御 位上を授けり</p>	<p>女之宮 二に成り 成石女御 位上を授けり</p>
<p>六十歳</p>	<p>七十歳</p>	<p>八十歳</p>	<p>九十歳</p>

赤

か

<p>○ 壬午年四月廿二日保成若位吉訪成石女御位上を授けり ○ 女之宮二に成り ○ 成石女御位上を授けり ○ 年の暮つてハ</p>	<p>○ 十月廿二日保成若位吉訪成石女御位上を授けり ○ 女之宮二に成り ○ 成石女御位上を授けり ○ 年の暮つてハ</p>	<p>○ 八月九月 ○ 十月廿二日保成若位吉訪成石女御位上を授けり ○ 女之宮二に成り ○ 成石女御位上を授けり ○ 年の暮つてハ</p>	<p>○ 十一月廿二日保成若位吉訪成石女御位上を授けり ○ 女之宮二に成り ○ 成石女御位上を授けり ○ 年の暮つてハ</p>
<p>女之宮 二に成り 成石女御 位上を授けり</p>	<p>女之宮 二に成り 成石女御 位上を授けり</p>	<p>女之宮 二に成り 成石女御 位上を授けり</p>	<p>女之宮 二に成り 成石女御 位上を授けり</p>
<p>二十歳</p>	<p>三十歳</p>	<p>四十歳</p>	<p>五十歳</p>

今位上

壬午のまじり
年のまじり

八ノ森(森)

春

- 春のひかりをえりよつりてまじり
- 二月にあれい
- まじりくまじりまじり

夏

- 夏のまじりまじりまじり
- 六月のまじりまじり
- いままじり

秋

- 七月七日も何にうらなふまじり
- 八月節日まじり
- 九月九日まじり

冬

- 正月のまじりまじり
- 二月のまじりまじり
- 三月のまじりまじり
- 四月のまじりまじり
- 五月のまじりまじり
- 六月のまじりまじり
- 七月のまじりまじり
- 八月のまじりまじり
- 九月のまじりまじり
- 十月のまじりまじり
- 十一月のまじりまじり
- 十二月のまじりまじり

五 十 二 歳

雲隠

- 雲の名のまじりまじり
- 白雲まじりの間八年まじり
- 雲のまじりまじり
- 夕暮まじりのまじりまじり

竹河 廿五の枝まで

白文 廿四の枝まで

人々 廿三の枝まで

菅君 右近衛

た

○菅君より口位任後十四日

春 菅君十八日

○二月廿一日

文

○年月日未詳ハ九日 菅君の姉女冷泉院ニ入リ

秋

○門一任後七月

夏 菅君十七日

○二月廿日男臨宮

文

に

○菅君より口位任後十四日 菅君の姉女冷泉院ニ入リ

○二月廿一日

秋

○菅君右近衛

ほ

○菅君十八日

四十歳 五十歳 六十歳

菅君 三位宰相 中納言

け

○四月冷泉院の女侍如左

○竹河幸神より九歳の月の お伊ハ年と云ふ事あり又 洞女に冷泉院の女侍

○任後十四日 菅君の姉女冷泉院ニ入リ

ふ

み

○菅君十九日

七十歳 八十歳 九十歳

紅梅 北の冬より

春 北の夏より

今代 萬葉集

寒生
十月に
とくし
せむし
とて
とて
とて
とて

梅 卯

○梅の始
○梅の始
○梅の始
○梅の始

○白うさぎ
○白うさぎ
○白うさぎ
○白うさぎ

卯

○今上の
○今上の
○今上の
○今上の

南 総 卯

○花の
○花の
○花の
○花の

卯 卯 卯

歳 四 七

り

卯

○春
○春
○春
○春

歳 卯

○花の
○花の
○花の
○花の

卯 卯 卯

歳 五 七

差
権大納言
右大将

東 屋

秋
八月は舟君をた遣おぼせをせんて...
舟君二条院の西のいさ...
白文お...
舟君の母と白文の...
秋はくぬ...
九月十日舟君思ひて二条の...
とゆひて...のまに...
秋

春

春
四月は舟君...
二月は舟君...
一月は舟君...
三月は舟君...
四月は舟君...
五月は舟君...
六月は舟君...
七月は舟君...
八月は舟君...
九月は舟君...
十月は舟君...
十一月は舟君...
十二月は舟君...

白文の
生
秋
六
六
六

歳 六

人々...
六

舟 浮

春
四月は舟君...
二月は舟君...
一月は舟君...
三月は舟君...
四月は舟君...
五月は舟君...
六月は舟君...
七月は舟君...
八月は舟君...
九月は舟君...
十月は舟君...
十一月は舟君...
十二月は舟君...

秋

秋
八月は舟君...
七月は舟君...
六月は舟君...
五月は舟君...
四月は舟君...
三月は舟君...
二月は舟君...
一月は舟君...
十二月は舟君...
十一月は舟君...
十月は舟君...
九月は舟君...
八月は舟君...
七月は舟君...
六月は舟君...
五月は舟君...
四月は舟君...
三月は舟君...
二月は舟君...
一月は舟君...

秋
七
七
七

歳 七

舟君...
舟君...
舟君...

晴 鈴

秋
八月は舟君...
七月は舟君...
六月は舟君...
五月は舟君...
四月は舟君...
三月は舟君...
二月は舟君...
一月は舟君...
十二月は舟君...
十一月は舟君...
十月は舟君...
九月は舟君...
八月は舟君...
七月は舟君...
六月は舟君...
五月は舟君...
四月は舟君...
三月は舟君...
二月は舟君...
一月は舟君...

春

春
四月は舟君...
三月は舟君...
二月は舟君...
一月は舟君...
十二月は舟君...
十一月は舟君...
十月は舟君...
九月は舟君...
八月は舟君...
七月は舟君...
六月は舟君...
五月は舟君...
四月は舟君...
三月は舟君...
二月は舟君...
一月は舟君...

秋
七
七
七

歳 七

打木軒村田先生編
算法地方指南

全一冊

田畑及別言石盛物成豊山採足の仕法より地方
算法の同答と載せ解義と詳し古今粗樸其
同と論一必取の度候と擇り山谷の高低を計る法
を示しけ出にうへ地を町足分足乃樹小なる

鳳岳先生編
拾機算法

全五冊

け書ハ點竄術と始と上本せ出めく法約簡管
整教拓差架樹園理孤宵木の真術とのせ出中
こハ漢文ありて樹文のふべきと要と候

鄰白石先生編
旭岡池田先生訂
社盟算譜

全三冊

楕圓周背の管術を初め凡一階ま一とくる
圓象球の求積と楕圓木の妙歌奇術
拵ハ社中より廟堂小摺西人を集む附録
球面三斜積木の求積と載と

湛岩井先生閑
杉藤山口先生著
算法圓理冰釋

全二冊

球面三斜積木の求積と載と
球面三斜積木の求積と載と
球面三斜積木の求積と載と

鄰白石先生閑
陶水村先生著
溫知算叢

全一冊

鄰白石先生の借によつて陶水先生自注
五圓珠の求積と楕圓木の奇題妙術を
集録する所あり

鄰白石先生閑
湛岩井先生著
算法雜俎

全一冊

鄰白石先生の社中自ら奇の術と寄一廟堂小
納むると集むる法算出と改心と此書と
階材とと算とと凡速小教意成はるに
和漢教家の由来と挙げ本編ハ門生
の廟堂小揚らと楕圓周背の真術及
圓珠異象の求積と先哲雜歌と号せ
向小一奇の善術と施せと輯録と

觀齋内田先生編
龍涯堀先生訂
古今算鑑

全三冊

古一より疑術の不出と凡も奇の妙と真なる
ありて凡の右なるもの逐後進仕け出と獲
點竄一のり自ら算法の妙とほふと
け書ハありくの算出と凡と凡と凡と凡と
記信するに及至凡八等凡一と凡小知の時と師
ありて點竄及比例木の理と自注一何なる
のぞみても自在なる凡と凡と凡と凡と

觀齋内田先生鑒定
權山志野先生編輯
豁機算法

全二冊

け書ハありくの算出と凡と凡と凡と凡と
記信するに及至凡八等凡一と凡小知の時と師
ありて點竄及比例木の理と自注一何なる
のぞみても自在なる凡と凡と凡と凡と

池田先生監定
稿本先生著述
算法點竄初學抄

全一冊

け書ハありくの算出と凡と凡と凡と凡と
記信するに及至凡八等凡一と凡小知の時と師
ありて點竄及比例木の理と自注一何なる
のぞみても自在なる凡と凡と凡と凡と

城山竹内先生閑
神山小林先生著
算法瑚璉

全一冊

け書ハありくの算出と凡と凡と凡と凡と
記信するに及至凡八等凡一と凡小知の時と師
ありて點竄及比例木の理と自注一何なる
のぞみても自在なる凡と凡と凡と凡と

南谷市川先生編

合類算法

全一冊

因幡小狐と穿去る所の内面積とを求めたり法
算術小狐と難題の求積と方陣と容題との妙術と
集成と初学博士といふもは書を編むに於ける時ハ
すゝやう小教程成極むに於ける也

豫山劉持先生著
逸齋野村先生訂

探蹟算法

全三冊

世小題術の書不毛と云ふ演題四理の奇難妙術に
於ては世に色々のを依りて世小を法き
工夫せしむる理の微妙と交時一の也

著隻御粥先生編

算法浅問抄

全一冊

此書の浅問と云ふは小輯編と云ふ世小題術の法
と初めて学ばしむる君をへ傳ふる時ハ其理成合
はざるの一冊とも云ふべし且進加方陣の通
術ハ古今未だ有らば奇術なり

坂先生編

算法學海

全二冊

天元演段角法輝於添割容題截積整數
變數變式極數截限諸約術管振差算術
少と載る初学博士は世小因と云ふは世小に

藩溪長谷川先生問
柳山宮本先生編

算法整數

全三冊

難題の整數より直方圓球圓筒の容題小
なるは奇雲奇難整數と云ふ解ふと詳
少は初学の士は書小因ると云ふは世小に

福島順基先生著

大橋録英先生改正

將基絹篩

全二冊

昔より絹篩の本教多ありといふも世の風小
不合故に今流りの絹篩定跡は奥と云ふ委し
何より教と出るは世小にありあるなり

右同著

將基獨稽古

全二冊

獨小大は仍も絹篩小選むるを括ひ箱の何より
なれり百の千の秘中ぬまも初学師に
便しむるは世小に蘊奥成究むべき也

一名絹篩二編

名大橋宗英先生著

將基步式

全二冊

此書は世小挿りて絹篩小漏るる絹篩より
定跡の本なり久しく秘と云ふは初学師に
便と熟習も世小に絹篩向ふると云ふは世小に

大橋宗英先生撰

大橋録英先生撰

將基早指南

全二冊

先小絹篩歩式小教あれども初学との意味の
解りかたと思ふ中も此安く示し實に手と云ふ
教と云ふは世小に上巻と云ふは早稽古の也

歩式二編

大橋宗桂先生著

將基妙手

全二冊

當時より仍も絹篩より初学第一の鬼鑑
あれは好むは方々なるは世小に

將基啓蒙正義

全二冊

定跡の絹篩と編核應生未だ熟習する時ハ
絹篩より自在なり妙手と云ふは世小に

大橋宗英先生著

將碁奇戰

全二冊

此書ハ先生と碁當時有名の上手な精力を結んで
奇巧と極る成辨出初学稽古の爲に作らる
色一が四方の好手求ふことを志す余に
命せし色上本より流布することハ余りぬ

大橋宗英先生選

將碁粹金

全二冊

先生とより碁時素人の上手な精力を結んで
妙とより碁の百番と撰くむめを撰りてこひ
とと老て初学稽古の便ありしむ

伊藤宗着先生選

將碁絶妙

全二冊

此書ハ當時三家宗匠方とけり有名は上手な
肝張ると絶妙絶妙とて指する百番と撰り
あり絶く是とはとてバ忽ち上手なとて

大橋宗桂先生選

將碁明玉

全二冊

當時家元宗匠方及素人の上手な精力を結んで
らり棋変妙用の百番と集られバ碁心のこころ
足るひく熟者せよ必し上手なとてひありとなん

大橋英俊先生輯

將碁軌範

全二冊

近來の名人を指する百番と撰り大碁をり
手合とのせ當時の地位とありりしをれを當時
考り流布する風と知る手本に成り

伊藤看壽先生著

將碁圖巧

全二冊

世に囲碁とお碁の何れも手教多しと評せり
お碁の奇変あり手教多きと知りて人々と碁
斗と六百十手又は十枚の碁と盤面小並に
終り小只二枚あり碁の碁の碁あり

三代目大橋宗與先生著

將碁養真圖式

全三冊

け出と奇と妙との碁物百番と著り碁と碁
ありしと乞求り世小公よりけ出によりて工夫
ありバ碁を小至て妙手成る碁

桑原君仲先生著

將碁玉圖

全三冊

先生碁物小妙を著り世に世の人知るところあり
け碁物の生涯の工夫ありて去り妙く實小け書り
よりて碁際の手けりてを知らし上手な小妙あり

將碁玉手箱

全一冊

寛政の以世に名する上手の碁とて集む

將碁童觀鈔

全一冊

二枚碁より手と碁組の妙とてありし碁

將碁袖珍手段

碁の初心の人と碁に定法成りてありし書

細井貞雄先生著
姓序考

全一冊

北林主人輯
類題今自讃歌

初編
全二冊

欽形蕙齋先生画
今様職人盡

全一冊

海保漁村先生著
周易古占法
同 國字解

全二冊
全二冊

朝川善庵先生校定
荀子箋釋

全八冊

世儀小戸と稱するものに序の序次あることを
妻一考へらして約長宿祿本の語釈に交り
文字の出まきても具に解説せられし人として
姓と稱するものに必わしてはるへうさる書なり

江戸現存の法名初学影の規則とある
これと歌二千餘首と評検見食のふし影
舟去ゆく果先せいある凡調と好まよと云と
之独く知る言名の家匠亦自撰の秀舟と集
成しさらとのび虫の外小なることあり

七十一番職人歌合小働ひく今の世の職人商人と稱て
彩をど加へるに石川推を北川真教西芝せ絵画と
仍りて各自存に去るれり風流の画なり且と
和文の規矩をて備へるにあり

い書ハ唐以後古占法の廢絶せりと嘆一上左圖より
下ハ歷代史史小徹して占法の古義と交りせり又九家
虞氏の系と載せり是と詳説し六十四卦用事の月
直日の法ハ圖と著して一覽瞭然たりむは去依
占法の妙と悟ハ占事小於て疑惑なき左圖等と解
せりも且と迎へ解ひてある也

荀子の書世に於て唯明の正徒中のみを誤後述て
多くて學者の惑と蓋を以て去ハ宋板より
本より謝先生まで皆く考法を加へられ荀子の善
本は去の右小なるものを

水藩川口先生著
征韓偉略

全五冊

植田孟縉編
官日光山志

全五冊

豊太岡の朝鮮征伐ハ我日本の武威を外玉小耀せり
蓋筆のりて國史と修むる者考究せしめりあるが
漢土朝鮮の書日本法象の秘冊と以て一毫の私成
加へず年月地理と推し事實の次第功の實否と
考ふべき朝鮮征伐の實録あり

當 沂山の勝地絶系あると洞及ハ沂漢傳の仙嶽
莊嚴と名ぬるる世にも小なる所なり去るれどもた
金殿玉堂とのと存當て委を知者あり今去ハ
凡俗の仍ふる死喰吐の山路に於ても少も洩るれ
播磨も居るるに足るべく山水も味して知るハ
又これ小密画を加へて深山幽谷の佳系手に取れ
かる廣大ある靈山なれば異本靈草飛禽の
如きも多ると作者とて真圖を撰字し
詳あり絶く老人小解一安く脚も秘を秘言その
沂山辨といふも沂山の事實小物語りなれば
秋物不盡も悉く記を恭 官許を歴てこに上本を
本年は書物なるに相せればある處なり

